

田原市立田原福祉専門学校後援会機関誌

# たつぷく だより

No. 11

編集発行 平成 20 年 3 月 1 日  
田原市立田原福祉専門学校後援会  
会長 林 和彦



## 「介護福祉士の介護教育」



南端 裕 江

介護現場で多くの実習生と出合い現場で伝えていくこと、学校で伝えていくこと、違いがあつて当たり前であるが、その両者の間にどのような共通項があるのだろうか、また、これまでの介護現場で感じてきたことを、これからの若者たちに伝えていく事が出来たら、きっと介護の世界がひろがっていくものと考え、不安以上の期待を持ちながら2000年4月に4期生、5期生とめぐり会いました。

「原石として入学して来ている学生を、角を取りキラキラしたダイヤにするのが貴女の仕事」そんなたとえで向き合う姿勢を教えてくださいました。介護福祉士として以前に、一人の人間としてどのような若者を世に送り出すのか。この七年間ゆるぎないものとして自分の中にあつた思いです。

時には学生に励まされたり、ともに涙したりの時間を過ごしてきました。学生に伝えることよりも何倍もの多くのものをいただけてしまったようにも思います。同じように介護の仕事も、提供する何倍もの目には見えない宝物をいただき、育ててい

次ページ下段へ

# 卒業生にインタビュー 7期生 山下宏雄さん

今回は、関心が寄せられた、7期生の山下宏雄さんにインタビューさせて頂いていただきました。

卒業後グループホームに就職して、介護職員として4年間が終わろうとしています。ご結婚もされ、お子様にも恵まれ、順調な家庭生活を営まれています。昨今の厳しい介護職の労働環境の中、自分の目指す方向にむかって頑張っており、大変ご活躍なさっている様子に、周りの人からの注目が寄せられたものです。

### (Eさんから寄せられた内容)

私が個人的に関心があることは山下くんの生まれてこのかたの彼の人生です…。福祉を学ぶに至るまでのこれまでの彼の経験を聞きたいです。彼は同い年の子達と比べてかなりずばぬけている感性を持っているように感じます。どんな経験が彼をつくったのか。お母さんを早くに亡くされているため、お母さんの死やお母さんへの思いとかが彼の成長を助け

たのでしょうか？家がお寺という環境に生まれ、その教えの中で、また、8人の兄弟姉妹の中でどんなふうに住んできたのでしょうか。大変興味深く、また、彼の話を伺うことで、先輩方をはじめ、後輩たちの元気につながることでしょう。

うーん。特別人と違うことはないと思います。ただ、実家がお寺ということもあり、多くの人に関わることはありましたね。やはり年長者と多くかかわり、話をする機会は、同年齢の人と比べると多かったですよね。しかも、70〜80歳の人たちとです。

母親が早くに亡くなっていることも影響しているのかもしれないですね。具体的によろしく影響しているのはわからないですが…。兄弟は多かったですが、祖父母はいない家族だったので、その家族生活の中で何か特別なかわりというものはなかったように思います。

特別に、今までの生活の中でというよりは、専門学校に入学してから様々な体験の中で、現在の自分が

あるように思います。「これじゃいけない」って自分を見つめることもできたからじゃないかな？

学生生活の中で先生の指導は自分にとって、とても有意義で、自分に変化をもたらしてくれました。専門学校での2年間は、自分の過してきた中での影響力は大きかったですね。ほんと、専門学校の在校中に気持ちや考え方が大きく変化しました。

### (Hさんから寄せられた内容)

現在のお仕事はいかがでしょう？

自分ひとりの力でも、今の介護現場の状況を改善できるといいと思っています。仕事をしていると、「こうしたいほうがいい」とか、いろいろ見えてきますよね。

具体的に改善できたこともありま



山下さんと朔也くん(長男)

前ページから

ただく事が出来る世界です。

技術は後からついてくるもの、それ以前に何を大事に考えるのですか、それが出来ていれば常に勉強しようという思いになるはず。人を大事にしなければならぬ私たちが自分自身を大事にしていきたいものです。

この七年間の中で、自分と向き合い、壁を乗り越えようとしてもがいている学生のそばにいて、乗り越えたそのとき見せてくれるすがすがしい表情を一番先みせてもらった時、どんな事があっても、まだやれるまたこんな時に一緒にいさせてもらいたいと思える大事な瞬間を何度も経験させていただきました。

介護現場で利用者に育てられる介護職といいますが、私たち職員も学生に育てられ、少しずつ大きくなっていく事が出来たと思います。

皆さんと同じように私の人生の根っここの一部が田原にあることを、そして、ここで多くを勉強をさせていただいたことを感謝し、これからの人生を豊かに、暖かく、たおやかに過ごしていきたいものです。

これからは、一人の人として末永くお付き合いさせていただければ幸いです。

田原福祉専門学校がいつまでも「よきたつぶく」であり続ける事が出来ますようお願いしています。

すね。職場では、自分の考え方ややり方を実現できる部分もあり、やりがいもありますね。

(S)さんから寄せられた内容)

仕事で悩むことは？

うーん。レベルアップしていかないとということでしょうか？年齢を重ねてきて、点数にあらわれないというべき仕事。結果がすぐに見えないですよ。自分の仕事の仕方が本当にこれでよいのか疑問に思ったりもしますね。評価も見えにくいものですよ。だから同様に、満足感、達成感も味わいづらい。年齢相応な状態に成長できているかどうか？とかが気になりますね。

仕事でしてみたいことは？

将来は独立してみたい。意気往々に・・・自分の目標です。もちろん同業種で実現させたいですね。

仕事で気をつけていることは？

「流さないこと」です。モチベーションを保つためには、本を読みますね。常に改善を心がけるようにしています。意識を現状に満足しない状態に持っていつていることに気をつけていますね。自分の中では、今に満足しないことが、重要だと考えて

います。

これからの夢は？

やはり、将来は独立。それにむかって、日々頑張っているつもり。子供に誇れる仕事として、頑張りたいですね。

自分は、今職場でおかれている状況も、環境的に、恵まれていると思っています。満足な状態です。ありがたい事ですね。

(H)さんから寄せられた内容)

家族に一言・・・職場の人へ一言・・・あらためて、この場で伝えたいことはありますか？専門学校の学生たちに伝えたい思いは何かがでしょうか？

うーん

学生には、今できる時にしっかりと勉強をするように伝えたいです。知識が自信につながるんです。

楽しむところは思いつきり楽しんで、勉強するところは勉強……

今回山下さんからお話を伺い、最前線の現場で働いている空気に直に触れることができたようにも思いますが、どのような職場においても、自分自身の意識が重要です。学校を卒業後間もないのに、自分の足でしっ

かり前に進んでいました。

家族の方や、職場の方へ伝えたい思いは、きつと感謝の気持ちばかりなのでしょう。はっきりと言葉にはされませんが、その思いが伝わってきました。

男性職員の重要性、必要性が高まる介護職。その背景にある待遇については、問題視されているところですね。

超高齢社会を迎えて、福祉職はますます必要になってきます。今頑張ってくれている皆さん、今後介護職に就かれる皆さん、少しでも介護職員の地位向上へつながることを期待します。

トピックス

介護職員賃上げ民主、衆院に法案提出(2008年1月9日)

民主党は9日、介護職員の賃金を引き上げるための「介護労働者の人材確保特別措置法案」を衆院に提出した。介護現場で人材不足が深刻化しており、介護の質を確保するため待遇改善が急務と判断した。08年度予算での対応を政府に求めていくという。

法案では、地域別や介護サービス別に平均賃金を算出し、それを上回る介護事業所の介護報酬を3%引き上げる。必要な900億円は全額国庫で負担する。これにより、半数の事業所の職員40万人(常勤換算)の賃金が月2万円増える計算だ。

お知らせ

後援会総会に合わせて、七期生の同級会を開催します。

- 1.日 時 / 平成20年5月11日(日)午前10時から
- 2.集 合 / 田原福祉専門学校

七期生同級会世話人代表 山下 宏 雄

田原福祉専門学校 ☎0531-22-3939

# 研修報告

平成十九年十一月に岐阜で「褥瘡」セミナーに参加しました。褥瘡を無くしていくために、どのような看護・介護をしていくかをテーマにして、二日間、勉強してきたことを報告したいと思います。

講師は豊田市にある三九朗病院の医師堀田先生と高知県の生き生きサポートセンター「うるば高知」で理学療法士をしている下元先生です。

堀田先生は褥瘡のリスクの高い人を見つけるのに、だれでも簡単に判るスケールを作られました。これは「OHスケール」というもので、従来から使われているブレードンスケールと違い、調査項目が少なく、すぐに判定ができるものです。下元先生は褥瘡の出来ない移乗の仕方やポジショニングの実技をされました。ここではポジショニングについて紹介したいと思います。

## 【姿勢管理】

寝ている姿勢や座っている姿勢が悪いと、床ずれが出来るばかりでなく拘縮を引き起こします。マットレスを選ぶことはもちろん、クッションを利用して、リラククスできる姿勢

を作ります。基本は体圧分散です。

体圧分散とは、広い面積で体重を支えて、一点にかかる圧を分散させ減圧させることです。寝ている姿勢も座っている姿勢も基本は同じ。体圧分散を考え、ゆがみのない姿勢を作つてあげてください。悪い姿勢は緊張が昂進し、硬い体を作りますので、拘縮ばかりでなく、首や口の周辺が硬くなり、食事が取れなくなったり、腹部が硬くなることで、便や尿をしっかりと出すことが出来なくなつたりします。

(褥瘡セミナー資料より)

姿勢管理のためにポジショニングをします。クッションはいろいろな大きさのものを使います。また、適当なクッションが無い時には、有る物で代用します。例えば、座布団や毛布など何でも代用します。



写真1

## 【ポジショニングの例】

写真1は「仰臥位」のポジショニングです。

ここではスネーククッションと大きなクッションを使いました。

次は「側臥位」です。写真2のようにします。

ポイントとしてはクッションに体重がかかるように当てると良いです。

セミナー後、体位交換する方の姿勢を見直し、一人ひとりの拘縮しているところにクッションを当てました。

ポジショニングする前の拘縮している部位は可動域が小さかったのですが、クッションを当てる事によって可動域が広がりました。

可動域が広がる事によりオムツ交換が以前よりもスムーズに行えるようになりました。

しかし、クッションの当て方によっては元の状態に戻つたりもしました。

まだ、完全に習得するところまでにはいたってはいませんが、日々努力しています。

【研修を受講して】

介護技術も医療技術と同じで、日々新しい介護技術が開発されているのではないかと思います。

学校で習う事は基本です。現場では日々新しい介護を取り入れ、介護



写真2

を受ける方が、より良い生活が送れるよう援助していかなくてはならないと思います。

それには、いつでもアンテナを張つて情報をとらえ、新しいことに挑戦していく勇氣も必要だと思ひます。私も毎日の業務に追われ、新しいことを始めると業務が増えるのではないかと思っていました。しかし、新しい技術を取り入れて、小さな成功体験を積むことによりモチベーションが上がってきました。そのことにより、また、新しい挑戦をしていこうと思つようになりました。

一人ひとりの小さな挑戦がより良い介護に繋がって、介護を受ける方の笑顔になっていけたらいいと思います。

報告者

松原宣子(1期生)

## この人に聞く

### 3 期生

### 芳賀 智美さん

今回は、3 期生の芳賀（旧姓鈴木）智美さんにお話を伺ってきました。芳賀さんは一昨年結婚され、ご主人は車椅子の方です。

現在静岡県静岡市にお住まいで、学校卒業から八年が経ち、素敵なパートナーと共に新たな幸せを築いていました。

**結婚おめでとございます。卒業後はどんなお仕事をされていますか。**

掛川市にある療養型の病院に勤めています。二年前から職場を在宅介護に変えて、結婚後はパートでヘルパーをしています。

**在宅の仕事はどうですか。**

ヘルパーは一对一で不安も多いし、家族との関係に気を遣います。ケアプランに入っていないケアができません。制限が多くてそれが苦しいです。

**ご主人との出逢いを聞かせてください。**

主人は十六歳の時にバイク事故で脊椎を損傷してしまい、それ以来車椅子生活です。出会いは五年前、静岡市で行われた全国障害者スポーツ大会

（国体）でボランティアをしていた時、バスケットの選手として出ていた主人と、知り合いました。

**どんなふうにつき合い始めましたか。**

国体が終わってしばらく経ってからデートに誘われました。正直、障がい者だからと、とまどいました。でも、障がい者だから逆に断りにくいということもあり、会うことになりました。一回会ったら楽しくて、何回も会ううちに、彼のことを好きになっっていました。

**結婚へのハードルはありましたか。**

はい。両親は結婚に反対でした。「今はよくても年をとったら体が動かなくなると、全面的に介助が必要になる。苦労するからやめた方がいい。」



と認めてくれませんでした。でも、私はよく彼を家に連れて行き、両親は、交流の中で彼の人柄を知り、反対する態度が少しずつ変わっていききました。

**人柄を認めてもらってからはスムーズでしたか。**

いえ。私の父は、親元で家業の手伝いをしていた彼に、社会に出て働くよう言いました。父にとってそれが結婚の条件でした。彼のご両親は社会にできることをとても心配しましたが、静岡県の会社に就職が決まり、まわりの協力もあり自立できました。そんな彼を見て、父も結婚を認めてくれました。

**ご主人は社会に出てどんなことに苦労されていましたか。**

主人は初めて社会にでたので、電話のとり方や言葉の使い方、基本的なところからのスタートでした。上司や同僚は今まで障がい者と触れ合ったことがなく、なんでも手伝ってくれようとしていました。どこまで自分ができるかをみんなに分かってもらうまでは、お互いに気を遣ってしまいい、しんどかったようです。

**結婚に対する周囲の反応はどうでしたか。**

友人は初め驚いていましたが、すぐに主人とうちとけました。まわり

には、車椅子の人と結婚したというだけで、「すごいね」「えらいね」と感心されます。彼は自分のことはすべて自分でできるので、私は何も手伝っていません。だから私は全然すくもないし、えらくもありません。**暮らしの中で困ることはありませんか。**



車椅子対応のアパートが少ないですね。なかなか物件がなく、今は普通のアパートで暮らしています。行きたいお店に、車椅子だと入れなかったり、障がい者用の駐車場に赤いポールが立っていたり、あのポールはとても困ります。車椅子の人がわざわざ車から降りてポールをどかすのは大変です。

**最後に、ご主人はどんな方ですか。**

**二人のこれからの夢を教えてください。**

主人は穏やかで怒らない人です。ケンカはいつも私だけが怒っています（笑）。夢は、まずは子供が欲しいですね。明るく笑顔が絶えない家庭を築いていきたいです。子供ができても、介護の仕事はできる限りずっと続けていきたいと思っています。

# 学生たちの輝く顔

学生たちは学校の授業だけでなく、様々に田原市ともかかわっています。開校当時の先輩がたの想いを受け継ぎながら・・・今もなお、地域の方々に支えられ、人のかかわりの大切さを学んでいます。時代が変わる中、変わらないものの意味の大きさに目をむけていて欲しいものです。

学生たちの一年の中でもわずかな一面ではありますが、積極的にかかわれた行事などを紹介します。

## 【たはら凧まつり】

五月二十六日(晴天)、凧をあげてきました。皆で見守る中、舞い上がった大凧は見事でした。感動しました。田福組の法被を着て、自分も大空に舞い上がったような気分になりました。



凧を見上げる学生たち

## 【田原まつり】

九月十五、十六日の田原まつり。神輿のあんどんづくりから始まって組み立て、自分たちの力でやりました。神輿かつきは大変でした。それでも、練習した踊りは、とても格好よかったです。巴江神社では、地元の人と一緒に踊ってくれました。神輿をつくることから、当日の運行まで、巴江の方々ははじめ多くの方に、大変お世話になりました。有難うございました。



## 【たつぶく祭】

十月二十一、二十二日と学園祭を開催しました。初日は雨に降られて

しまいました。が、二日間を通して多くの方にお越しいただき盛況でした。施設の方々、保育園の園児などご模擬店やゲームを楽しんでいる様子がたくさん見れました。

卒業生やOB職員の間も有意義な二日間でした！  
・・・祭りの後の後夜祭・・・みんなで力をあわせひとつになることができたよね？涙もいっぱい流れたかな？。学園祭は準備から当日まで、いろいろ大変だった様子。大勢の人がひとつにならないと、なかなか進まない事も多かったらうと思えます。終わりを越えればすべてよしという言葉はありますが、途中経過も見過ぎず、反省材料もよい経験として、社会に出てから役立てて欲しい力のひとつです。

## 【菜の花畑にも登場】



広報「たはら」平成20年1月号の表紙を飾ってくれた学生(12期生)たち

(登場学生のコメント)

菜の花畑どうだった？

きれいだった。

菜の花をこんなに見ることは？

こんなにたくさん咲いているのは見ることないかな？時期もこんなに早くはないよね。

田原の印象はどう？

うーん、風が強くてビックリ。写真撮影の日も、とても風が強くて寒かった。

学校生活どう？勉強は大変？

勉強は大変だけど、頑張っています。通うのが大変・・・

周辺はきれいでいいところだけど、学校周辺が便利じゃないよ。コンビニにも遠いよ。便利にして。

などなど、寒い中での笑顔の理由を尋ねると・・・みんなで写真を撮ったこと自体が楽しくて・・・今回、こうして写真がとれて、いい思い出になるよね。6人仲がいいから・・・全員出身の県が違うから・・・卒業してからは、なかなか会えなくなるだろうし・・・」と

この笑顔を忘れずに・・・これからも仲良く、学校生活充実させてね！！そして、若いエネルギーをあちこちに撒き散らして、田原にたくさんのお花を咲かせてくださいね。

# 学校だより

十九年七月職員の変更がありました。



(転出)  
学生課長補佐兼係長  
大場 直子

昨年の七月付けで、総務部文書課に替わりました。田原福祉専門学校には、平成十三年四月から十九年六月まで勤務し、皆さんにお世話になりました。

私たち学生課の職員は、授業こそしません、学生の皆さんとは、学校生活のサポートの中で親しくなり、学ばせていただくことが数多くありました。進学説明会に始まり、入試や入学式、卒業式などのイベント、普段の学校生活の中で、思い出はつきません。

特に、体験入学会等で、個々の皆さんの意見を聴く機会があると、それぞれに深く考えていて、体験から出てくる言葉には感銘することもありました。

高校訪問をすると、担当の先生は、よく卒業生のことを覚えていて、専門学校での様子を気にしていました。高校の先生だけでなく、専門学校の教職員みんなが心を配り、在校生はもとより卒業生の皆さんのことも、

応援していることを忘れないでください。

また、卒業生の方とも、後援会の役員会やたつぷくだよりの編集等、一緒に活動する中で、多くのことを教えていただきました。施設に一緒に視察に出向いたこと、話をするうちに悩み事の相談から、現場での様子が理解できたり、人の輪が広がりたり、頑張っている様子に感化されたり、頼られる中でやりがいを感じたり、通常の市役所の仕事の中では経験できないようなことを体験させていただきました。

在職中は、立场上厳しいことを言ったりしたかと思いますが、今でも街中で在校生や卒業生の皆さんと会うと、挨拶をしてくれたり、話しかけてくれて、嬉しくなります。

介護を取り巻く環境は、相変わらず厳しいものがありますが、介護の現場で働く皆さんや在校生の皆さんが頑張ることで、「たつぷく」が評価されれば、お互いに高めあうことができます。一人ひとりには微力であっても、力を合わせることができたらと思っております。

そして、講師の先生方始め、そこで知り合った方々との出会いが、大きな財産でした。教職員だけでなく非常勤の先生方や外部から来ていた

だく方々にもご指導いただき育てていただいたと思います。

皆さんにとっても、そういった恵まれた環境であることも忘れずにお互いに切磋琢磨、また、会うときまで成長し続けましょう。

では、お会いできるのを楽しみに皆様の活躍をお祈りしています。



(転入)  
係長  
彦坂 英美

専門学校での勤務も、早いもので九ヶ月を過ぎました。心にとめていくことの一つとして、「にこやかに過ごそう」ということです。

けれども、学生に声をかけられ「ドキッと」する事が時折あります。「忙しそうに・・・不機嫌そうに・・・疲れているような顔をしていなかった？」と自分を振り返り、後悔をすればかり。

福祉の現場にストレートに向かっている学生たち。介護が必要な人に接するとき、充足した穏やかな気持ち、強い精神力が必要なことでしょ。些細な事しかできない中、せめて学生たちが困難なとき、疲れたときに笑顔で接して、「この学校に通ってよかった。」と居心地のよい雰囲気を作るように、自分自身が成長しなければと感じる毎日です。

## 【公開講座】

本年度も、カワガム久子先生(コミュニケーションセラピスト)をお招きしての、公開講座を平成十九年十月二十二日(月)に開催することができました。

今回のテーマは、インクルージョンに期待するものであり、今年四月から開始された、軽度発達障害児のための「特別支援教育」について、制度の概要と特徴をはじめ、アメリカでの実践から学ぶ視点を含め、日本の「特別支援教育」を成功させるために、講演をしていただきました。

参加者は、先生の独特な温かさにもふれることができました。講座では、貴重なご自身の体験もお話いただき、参加者は多くの感銘を受け、先生からの元氣もいただけた様子でした。

## 悼む

二期生 柴田美代さん

「自由の杜」知的障害者施設勤務  
平成十九年十二月九日逝去(五四歳)

後援会の役員として活躍してくれていましたが、お亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

たつぷくだよりの編集にも積極的に関わっていただき、大変感謝しています。



# たうびく テイルム



オーナー 松原直子 山下宏雄  
 お客様(敬称略)  
 嶋本 成子 石井 理枝  
 渡辺 恵里 比嘉マリサ  
 菅沼 綾香 太田 美希  
 中尾 友美 河合 祥子  
 中神 翼

R 今日は一期生から十期生まで幅広く集まっていたきました。

S 今、介護の現場では離職する人が多く、養成施設にも人が集まらない現状があります。そこで日々現場で頑張っている皆さんがどのように感じているのか、話し合ってみたいと思います。

S 私は福祉の仕事がしくて入学したんだけど、実際勉強してみてもまづくともあるし、就職してみたら給料の安さに驚きました(笑)でも大事なことだと思っんですよね。

R そうそう、生活がかかってくることだからね。

S 職員が少ない上に新しい人が入ってこない、だからって仕事量が減るわけではない。むしろ出勤日数は増える。だからきつくなつて辞めていくんじゃないかな。

S 介護の仕事が好きなら続くとと思うけど、将来的なことを考えたら給料が安いと辞めざるをえないこともあると思う。結婚して家庭を持つたり。

S 腰を痛めちゃうこともあるかな  
 S あるある。学校で習ってはいるんだけど、いざ仕事をしてみると、

とにかく“早く早く”と時間に追われて、気づけば力だけでやってるんだよね。これ以上腰を悪くしないように介護から離れないといけないのかなと思うこともあるよ。

S 拘縮の具合や体格で想定外な人も多いんだよね。学生の頃のモデルは都合が良すぎたっと思う。

S 女の人は妊娠したら続けにくいし、

S 力を入れたり踏ん張ったりするから流産とか怖いよね。そういうことも考えたら離れていっちゃうかなと思う。

R うーん、わかる。よくわかるよ。じゃあさ、就職して実際に現場を見てどう思った?

S 介護の道に入りたいと思って入学したけど、実習で現場を見て正直嫌だと思っただこともありました。それが原因で学校を辞めちゃう友達もいて、学校で習うことと現場のギャップがショックでした。

R 一番ショックを受けたのはなんだった?

S 食事介助ですね。自分もしちゃうんですけど、立って介助するんですよ。

一同 あゝ……

S 結局一人で同時に何人も介助しないといけないから、ゆっくり座って介助ができないんですよ。時間までには食べ終わらなきゃいけないし。S ご飯とおかずも混ぜちゃう……。最初にやったときにすごく悲しかった。

R 人はいないのに業務は時間でまわさなければならぬ。一人一人を《人》として扱う余裕がないんだね。理想を持って仕事に就いても人手不足で時間に追われて自分の納得のいく介護ができない。それで離れていく人も多いんだよね。

S 私のところはグループホームなんだけど、それなりに職員もいるから終末期には一対一で最後まで付き合えるよ。

S 施設によって制度が違うからって、そこで線引きされるのっておかしいね。同じ介護を受けてるのに《人》として係わってもらえるかどうかが違うんか



S 介護を受けてるのに《人》として係わってもらえるんかどうかが違うんか。そう思いながらもそうせざるを得ない現実が辛い。私は夜勤

が特に辛い。夜勤明けの帰宅途中にふっと意識が……(笑)

S 身体的にも給料も過酷。割の合わない仕事だよ。もう少し給料が上がればやる気にもつながるんだけど。

R それが今問題になつてるんだよね。最低賃金をもう三万上げるっていう請求を国に出してるみたい。実現されたら大きいよね。離職を考える人も少しは減るんじゃないかと思うな。

S 結婚して子供が生まれて……となると楽な生活はできないですよ。家賃を払ったりしていたら生命保険には入れないです。生活していけないんだつたら家族のためにも転職を考えざるをえないですね。

S 仕事に対する評価をきちんとしてほしい。そうすれば働き甲斐もあるし。

S 誰よりも見ていてくれるのは利用者さんで「あなたがいてくれてよかった。」って一言で嬉しくなっちゃうんだよね。

R だからこそ不満を言いつつ、続けられるし、仕事を辞められないんだよね。人間対人間で心が通い合えた時にもえる充実感はなんともいえないものがあるよね。こういう気持ちはこれから介護の仕事に就こうとしている人たちにもぜひ感じてもらいたいな。

今日はありがとうございました。